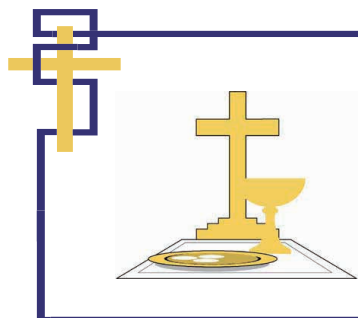




広報 なかわだ

第442号

2017年3月5日

2017年3月

中和田カトリック教会
広報委員会

泉区中田北1丁目9-1 Tel. (045) 803-6141
<http://nakawada-catholic.com>



「7旬節、6旬節、5旬節、・・・四旬節」

フランシスコ・ザベリオ 日野_武満 神父

今年の四旬節は、三月一日の灰の水曜日から始まります。

古い典礼の時代には二月十二日が7旬節、二月十九日が6旬節、二月二十六日が5旬節でしたが、典礼の改正によって年間の主日となって、今年は年間第8主日が二月二十六日にあたります。

四旬節は三月一日（灰の水曜日）から四月十六日の復活祭までの四十日間、典礼は月の暦、クリスマスは太陽暦で、カトリック教会は両方を取り入れて一年の典礼暦としています。

教会は聖書と典礼を用いて、一年の祝日、祭日、平日を決めてA, B, C年に移動していきます。間もなく迎える四旬節、聖週間、復活節へと心と教会が勧める犠牲の行いと、祈りに勤めましょう。



歴盤：月歴_12か月_太陽暦
四季_春夏秋冬
典礼歴_復活祭(2017年4月16日)



日	曜	典 礼 (ミ サ)	備 考	そ の 他
1	水	祝日ミサ (19:00)	灰の水曜日	
3	金	初金ミサ (9:30)	十字架の道行 1 (9:00)	
5	日	主日ミサ (9:00)	四旬節第1主日	
8	水			聖書の会 (10:00)
10	金	週日ミサ (9:30)	十字架の道行 2 (9:00)	
12	日	主日ミサ (9:00)	四旬節第2主日	教会委員会
15	水			聖書の会 (10:00)
17	金	祝日ミサ (9:30)	日本の信徒発見の聖母 [祝] 十字架の道行 3 (9:00)	
19	日	主日ミサ (9:00)	四旬節第3主日	みんなの会
24	金		十字架の道行 4 (9:00)	
26	日	主日ミサ (9:00)	四旬節第4主日 (牧山神父様司式) 子どもミサ	講話 / ゆるしの秘跡
31	金	週日ミサ (9:30)	十字架の道行 5 (9:00)	

※神父様休暇 3月20日～3月29日

～ ころろにひびく聖書のみ言葉 ～

「主よ、あなたは何もかもご存知です。

私があなただを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」

(ヨハネ21.17)



「ヨハネの子シモン、私を愛しているか。」ペトロはイエスが三度目も、「私を愛しているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何もかもご存知です。私があなただを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」(ヨハネ 21.17)

これは、私がイエスさまに出会ったばかりの頃、バスの中で読み涙が止まらなくなった御言葉です。このころ私はまだ本当の自分と、社会での表向きの自分のギャップに悩まされながら、それでも「立派な自分」を演じようとし、疲れ切っていました。

ご自身が捕えられた時に、3度も「知らない」と言ってご自分を見捨てた弟子を赦され、再会された時、「私を愛するか」と同じく3度の問いかけによって愛を表し歩み寄って下さるイエスさま。それに対して、胸を張って「はい、愛しています」とは言えず、「主よ、あなたは何もかもご存知です」と、心を痛めつつも自分の弱さを認めて素直に精一杯答えるペトロ。私は、この二人が向き合う場面を思い浮かべ、神さまの愛はなんて計り知れないんだろう、そして、神さまの愛で人がこんなにも素直に、こんなにも純粋にへりくだり、美しくなれるんだ、というただただ感嘆と涙でした。「私も100点満点の人間じゃない。20点しかないかもしれない。でも神さまの愛に照らされ素直になればペトロのようにこんなにきらきら輝けるんだ!」と、一気に固い心の鎧が打ち砕かれたような感じがしました。今も「素直さ」を大事にしようと思っています。

話しは戻りますが、この御言葉をバスで読み、涙が止まらず、顔はぐしゃぐしゃで鼻水をたらしながら立場の改札を抜けてトイレで化粧し直したのを覚えています。(久山 里美)



< 渡部農園さんからの手紙 >

昨年中は大変お世話になりました、感謝申し上げます。

本年も、よろしくお願い申し上げます。

雪国の会津の年明けは、大雪になることもなく穏やかな日々でした。ようやくの会津の冬らしい雪景色です。

昨年も、地震、洪水、枯水と多くの災害に見舞われました。今年は、穏やかな日本の四季に育まれる一年であってほしいと切に願わずにはられません。

冬は冬らしく雪に埋もれ、春はいのちの芽吹きを肌で感じ、梅雨の雨で大地は潤され、夏の日照りにも耐えることができ、やがての秋雨で再び大地は潤いを取り戻す、そして、秋空のもと多くの実りを与えられる。そんな会津の四季の恵みが、壊れることなく子ども達へ手渡してゆける様、ささやかでも出来ることを……。

私共も還暦を過ぎ、そんな思いを募らせながら今年も耕してまいりたいと思います。同時に、飯舘村をはじめ、原発事故による避難の方々の帰還も始まりますが、前途が希望に向かうことを願いながら……。



「平和」－和解と平和構築の実現－

1月28日（土）午後2時よりイグナチオ教会、岐部ホールにてNPO法人マザーハウス主催・駐日ルワンダ共和国大使ヴェネティア・セブンダンディ氏の「平和」について講演会がありました。

ルワンダは1994年100日間で100万人もの大虐殺があったことで知られる中央東アフリカに位置する四国ほどの小さな国です。ルワンダはもともとツチ族とフツ族の職業別役割があったものの部族間の結婚もあり平和に共存していたそうです。ところが植民地支配されたとき宗主国が差別的な制度を始めたことをきっかけに部族間の不満や憎悪が蓄積、やがてフツ族過激派が全てのツチ族を一掃しようと虐殺が起こったのです。最終的には国外に逃げたツチ解放軍がフツ政府軍を制圧して紛争は終結します。

その後驚くほどスピーディに復興が進み、今ではアフリカで安全な国と言われているそうです。平和と安全を構築する上で第一に掲げられた「復讐しない」、「勝者が全ての利益を取得しない」というヴィジョンはまさにキリストの教え「愛とゆるし」そのものであると感銘を受けました。具体的にはガチャチャ裁判という既にルワンダにあった調停的裁判が採用されました。比較的罪が軽いと判断された人々は自分たちが犯した罪を被害者家族に話すことによって「ゆるし」を得て和解を実現していく手法です。また虐殺に至ったルワンダの歴史教育に力を入れ、共同社会奉仕など国民一人ひとりの参加によって国の復興が進められていきました。現在ではフツ族もツチ族もなく一国民として元フツ族にも政府の要職を割り当て、また女性も重用して個々の自己価値、尊厳、可能性を引き出すことに重きをおいていることを強調されました。

「このような虐殺の後に和解を実現し、これほどまでに復興を遂げることができたのはなぜか？」「復興にキリスト教の影響は考えられるか？」との参加者の質問に「ルワンダ国民の大半はキリスト教です。キリストの教えが癒しを与えたことは間違いないでしょう。しかしこれほどまでに成功したのは奇跡ですね。実際ルワンダの奇跡とも言われています」と満面の笑みを浮かべながらお話になったのが印象的でした。

ルワンダは赤道に近いとはいっても標高が数千メートルもあり一年を通して過ごしやすく豊かな自然に恵まれ「永遠の春」ともアフリカのスイスとも呼ばれるそうです。マザーハウスのマリアコーヒーの豆はこのような部族間の虐殺を乗り越え和解を実現させ平和になったルワンダの農園から直接輸入しています。キリストの「愛とゆるし」はこれらのコーヒー農園においても証されているのではないのでしょうか。元受刑者の更生・社会復帰を支援するマザーハウスが奇しくもマリアコーヒーを販売するに至ったのはただの偶然とは思えません。マザーハウスもルワンダにならい社会奉仕なども行いながらか地域社会に繋がりを持つことで更にコーヒー販売やその他の活動にも支援の輪が広がるのではないかと思います。また紛争が絶えない世界情勢にもルワンダをモデルとした世界平和が実現されることを祈らずにはいられませんでした。（今井 暁子）



「一粒会」の紹介

横浜教区一粒会は、練成会を始めとする召命促進及び神学生の養成をすすめる教区の活動を、祈りと献金を通して支える信者の自主的活動として発展してきました。

司祭の高齢化と召命の減少が憂慮される現在、私達一人ひとりが信仰を生きるために、どれほど司祭が必要とされているかを思い、召しだしに応える勇気をいただけるよう祈るとともに献金を通して、この司祭養成活動に寄与することが求められています。

中和田教会では約330名の信徒の方のうち、56名の方が、毎月一口100円で何口でも一定額を献金していただいております。2016年1月～12月分として20万7千円を中和田教会から献金として、本部に送金致しました。皆様の献金が神学生の学費、養成費として使用され、多くの司祭誕生の一助となっております。毎月ご協力いただき、ありがとうございます。

中和田教会一粒会は、毎年12月締めで送金しています。1月に新しい献金袋をお渡ししていますので、昨年の袋は使用せず、今年の献金袋をご使用ください。袋がない方は、関口までお知らせください。（関口 貴子）



委員会だより

(文中敬称略)

△2月12日(日) 11名出席▽

■日野神父様のお話

・寒い日が続きますが、風邪をひかないように皆さん頑張ってください。
今迄の役員さんにご苦勞様でした。
新年度の役員さん、よろしくお願
いします。

■各グループからの報告

●副委員長より(岩崎)

・横浜地区の「聖歌の集い」の担当の大宮さんからの、ご報告です。今年の「聖歌の集い」は、5月28日の2時から中和田教会で行われます。前の週の5月21日には、練習が行われます。当日や練習だけでも皆さんに加わって下さいとのことです。

●典礼(小野(雅))

・2月～4月の典礼暦の確認。

・日野神父様が、3月20日～29日に休暇を取られます。そのために、3月26日(日)に、牧山神父様司式のミサとゆるしの秘跡、黙想会が行われる。

・4月のご復活の主日の前に、夜に行われるミサや祭儀が3日間続く。19時開始だが、15日の聖土曜日は、子ども達が参加しやすいように18時開始とする。

・4月16日の復活の主日ミサの前に、9時30分から50分まで、教会の祈りを行う。

●財務(小野)

・1月分の一般会計、建設会計、愛の献金の会計報告が行われた。

・建設会計は、1月に多額の寄付があった。

・愛の献金の指定献金については、今後、その都度、ミサ後の案内の時間にお知らせして、自由献金のお願いをする。

・建設献金については、目に見えるグラフ化を検討する。

●宣教(岩崎)

・森脇さんの知人のカトリックメディア協議会会長の千葉茂樹氏の講演会を検討しているが、講演料と交通費を宣教の予算から出していただけないか？

↓予算化することが決まった。

●要理(保科(桂))

・今年度の初聖体の該当者はいないが、来年度は1名の予定。

・ご復活祭に向けて、ゆるしの秘跡の日程を検討している。

・子ども達が少人数化、低年齢化しているの、侍者や献金の手伝いを

する時にうまくできなくても、温かく見守ってほしい。

●福祉(阿部)

・各家庭で、わかめ、味噌、お米、缶詰などの余った分がありましたら、ホームレス支援のためのご寄付をお願いします。

・愛の献金箱は、四旬節になったら出します。

(小野) 施設寄付については、福祉部で提案してほしい。

↓福祉部で検討し報告する。

●建物を考える会・営繕(五十嵐)

・掃除機が1台不良なので、購入する。
・告解室の改修について、検討する。

●総務(小山(利))

・3月のスケジュール確認。

●広報(武田(幸))

・原稿依頼(締切2月22日)

●行事(大原)

・ご復活祭の内容について検討している。卵は無料で配る。

●みんなの会(岩崎代理)

・2月19日は集会室にてサロン形式で開き、今後の方針について話し合う予定です。

■その他報告事項

・月修資料が配布された。

・「教会案内」を改定したので、使っていたきたい。

■討議事項

・信徒大会の反省としては、若い世代と外国籍の方々の参加が少ないので声をかける。

・薬剤師会の教会内への駐車について、今後は駐車料を頂くことにする。

・教会建設資金の他教会への依頼は、2月19日の第5地区共同宣教司牧委員会をお願いする予定です。

以上

(次回委員会 3月12日)

福祉Gからのお知らせ

・ホームレスの方に、食事を提供するための食料品を集めております。ご自宅で余っている食品等、例えば、お米、味噌、調味料等がありましたら、ご寄付願えれば有り難いと存じます。中和田教会に、お持ちください。(阿部 寿美恵)

